

# 新小山市民病院総合医養成プログラム

(日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム Ver. 2)

プログラム責任者	小松憲一 (総合診療科副部長)
郵便番号・住所	〒323-0827 栃木県小山市大字神鳥谷 2251 番地 1
代表電話番号	0285-36-0200
代表 FAX 番号	0285-36-0300
E-mail	shin-oyama@hospital.oyama.jp
定員	1 年あたり 2 名
期間	3 年間

## A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

場所：栃木県小山市

栃木県小山市は人口約 15 万人の栃木県南部に位置する都市である。良好な交通の便などにより近年人口が徐々に増加している。当地では、地域に求められる医療の在り方として「地域で医療人を育成し、地域に循環するシステムを構築する」ことが提案され、「小山の地域医療を守り育てる条例」の制定を目指して手続きが進められるなど、医療者と行政・住民が一体となって地域医療を改善する土壌が形成されている。

研修の拠点となる小山市民病院は小山市を含む栃木県南医療圏における病床数 342 床の中核病院である。病院の特徴として循環器内科と神経内科・脳外科のスタッフが充実しているのが特徴で、医療計画における 5 疾病のなかでも特に救急医療の面で大きな課題となる脳卒中や急性心筋梗塞に充分に対応できる体制作りが進められている。平成 26 年 4 月より医学教育研修の環境整備と総合診療医の役割を担うことを目的として新おやま市民病院地域医療教育センターが設立された。トータルクリニック寺門医院は小山市内にある診療所で、日本プライマリ・ケア学会評議員でもある寺門道之医師により、地域に根ざしたプライマリ・ケアが実践されている。これら病院とクリニックを中心とした研修を行うことで、一つの地域の中で専門性の高い二次医療から母子保健や在宅診療などのプライマリ・ケア医療まで幅広い知識と技術を習得することが出来る。

## B. プログラムの理念、全体的な研修目標

＜地域の中で医師を育てる＞

地元医師会との連携が良好である中核病院で研修を行う中で、一人の患者に対して地域全体の医療資源を有効活用することにより、生活に密着した医療が継続されることを学ぶ。

＜地域を見る視点を養う＞

地域医療について行政・住民との間の連携が良好である特徴を活かす。地域住民との関わりの中で地域を見る眼を育む。地域の人々と積極的な交流や救急医療の実情を知り、地域診断の観点から地域における医療ニーズや予防医療の必要性などについて自ら学ぶ姿勢を養う。

＜患者中心の医療を実践する＞

患者の症状に応じて適切な診療が受けられるようデザイン出来る。そのために必要な専門性や知識を習得する。患者の生活歴や社会背景を考慮し、患者の意思を尊重しながら医療方針を決定する。

## C. 各ローテーション先で学べる内容や特色

新小山市民病院は各科専門医が多く在籍し、低い垣根で相談しやすい環境であり、この病院内で総合診療研修 I 以外の全ての領域を研修することが出来る。内科系では循環器、神経内科、消化器内科のスタッフが充実しており、脳卒中や心疾患、消化管出血症例に対して 24 時間対応する体制がとられている。内科領域や救急領域の研修を繋ぎ目なく行うことで、これら症例を初療から急性期治療を経て慢性期・維持期に至るまで学ぶことが出来る。

また、トータルクリニック寺門医院では、一般内科・小児科診療、高齢者医療、禁煙外来、超音波検査、内視鏡検査（上部消化管・下部消化管）、一般外科処置、予防接種、乳児健診、在宅医療、各種

検診などを経験できる。また、寺門道之医師に同行して、小山市の乳児健診なども体験できる予定である。

#### D. 指導体制に関する特長

院内での研修・教育にあたる2名の専任医師が担当する。これにより研修医がどの部門・施設で研修していてもきめ細やかなフォローアップやメンタリングを行うことが出来る。

新小山市市民病院内に臨床実習・研修管理委員会が設置されており、定期的に行われる委員会の中で研修担当医からの評価や技術の習得状況が報告される。

内科研修について、循環器、神経、消化器、呼吸器、腎臓各内科専門医が常勤している。うち4名が指導医資格を保有しており、同一病院内で専門研修を継ぎ目無く行うことが可能である。

小児科研修も4人の専門医資格を有する常勤医の元で十分な指導バックアップ体制が確保されている。

救急医療に関して、自治医科大学救急部からの救急専門医師の派遣により救急外来が運営されており、ブロック研修が可能であるが、他科研修中の兼任研修も可能になるよう配慮される。

総合診療専門研修Ⅰが行われるトータルクリニック寺門医院では、寺門道之医師が、H26年7月末日までに指導医申請をする予定である。寺門医師は、昭和54年に自治医大を二期生として卒業後、僻地医療に従事した経験と、藤枝市立志太総合病院にて外科学会、消化器外科学会認定医の資格を有する外科医として外科医長を務めた経験を有し、その後、トータルクリニック寺門医院院長として、平成3年からプライマリ・ケア学会会員として活動し、プライマリ・ケア連合学会認定医の資格を有し、また、地元の大学教育学部で小児保健の講義を7年行ってきており、小児科診療についても、経験が豊富である。また、トータルクリニック寺門医院は、主診察室以外に、三つの個室診察室を有し、その一つには、電子カルテや画像診断のためのパソコンも設置してあって、二列で診察が出来る特徴がある。また、二階は、会議室になっているが、研修医の学習、研修、休憩が可能になるように、二階の改装を計画中である

#### E. その他

病院内外で地域医療に関する住民や医師会との交流の場面が多く、市民と地域医療についてフラットな関係で語り合う会が定期的に行われている。また、医師会との間では、病院主催の研究会の他、医師会主催で幅広いテーマで知識や技術について情報交換を行う懇話会が開催されている。こうした地域の中での交流を通じて臨床医師としての診療技術だけでなく俯瞰的な視点での地域医療の在り方、患者視点からの医療や病院の在り方を学ぶ機会が豊富に用意されている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		11月	12月	1月	2月	3月
1年目	新小山市市民病院総合診療科 (総診Ⅱ)												
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		11月	12月	1月	2月	3月
	新小山市市民病院救急科 (救急)			新小山市市民病院 (内科)				新小山市市民病院 (内科)			新小山市市民病院 (その他)		
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		11月	12月	1月	2月	3月
	新小山市市民病院小児科 (小児科)				トータルクリニック寺門医院 (総診Ⅰ)								

## E. 領域別研修の場

### 総合診療専門研修 I

トータルクリニック寺門医院 内科 診療所 無床 9か月  
指導医 寺門道之

### 総合診療専門研修 II

新小山市民病院 総合診療科 病院病床数 342 床 診療科病床数 12 床 12 か月  
指導医 小松憲一、三瀬順一

### 領域別研修：内科

新小山市民病院 神経内科・循環器内科・消化器内科  
病院病床数 342 床 内科病床数 190 床 内科常勤医 18 名 指導医 4 名 6 か月  
指導医 川上忠孝

### 領域別研修：小児科

新小山市民病院小児科 診療科病床数 14 床 3 か月 常勤医 4 名  
指導医 野崎靖之

### 領域別研修：救急科 3 か月

新小山市民病院 年間救急搬送研修 1538 件  
指導医 米川力

### 領域別研修：その他

一般外科（選択、ブロック）3 か月 新小山市民病院外科 栗原克之  
整形外科（選択、ブロック）3 か月 新小山市民病院整形外科 東高弘  
泌尿器科（選択、ブロック）3 か月 新小山市民病院泌尿器科 熊丸貴俊  
耳鼻咽喉科（選択、ブロック）3 か月 新小山市民病院耳鼻咽喉科 川田和己  
放射線科（診断・撮影）（選択、ブロック）3 か月 新小山市民病院放射線科 近藤まり子

## G. 評価方法・研修修了認定方法

### （1）自己評価

学会で示された目標のマトリックスに準じて作成された項目につき、達成度を 3～6 か月ごとに自己評価し、プログラム責任者と面談して、研修内容を調整する。

### （2）プログラム責任者による評価

3～6 か月ごとに研修医と面談し、上記自己評価ならびにブロック研修ごとの指導医の意見とあわせて研修状況を多面的に評価する。

### （3）ポートフォリオによる評価

研修ブロックの単位ごとにポートフォリオを作成し、即時フィードバックを中心とした自己評価、指導医評価に利用する。

### （4）修了認定

プログラム責任者は、上記の評価を総合した所見をまとめ、プログラム管理委員会に報告し、報告を受けたプログラム管理委員会により、修了を認定する。